

# 医芸俳壇



千葉 秋葉 琢磨

万緑や穂高のふもとの同期会  
紫陽花の路地で艶めき競い合つ  
鯉職北陸の川横断し  
残雪の飯山の曲路に数多あり  
珠洲製塩見たりなめたり夏の海

長野 有泉 七種

白雲の生れてはきゆる青あらし  
藤房の艶ます風の来てあたり  
バラ垣の朝生き生きとかほりけり  
どの花も白きをほこる卯月かな  
夜濯ぎの遊びこころに更けゆけり

北海道 静岡 岩本 漂人

霧の奥キンザンマシコの声ならん  
霧暗れればタンチヨウは五羽をそかんぞう  
えそにゆつやマキノセンニユウ虫の声  
コヨシキリ声はぶらんこウトナイ湖  
エゾセンニユウ原生花園をゆるがして

東京 小南 丁字

銀メダル雛壇真央ちゃん仲間入り  
春浅し歌舞伎の静けさ咳を呑む  
西陛下「国春」に人參惜しむ春  
夢植えるマアータイさんの樹々の春  
西陛下妃殿下お揃いピオラの奏  
(皇太子殿下のOB会)

新潟 中村 雄彦

梅雨傘を道いつぱいに登校す  
咲くよりも落花多き椿かな  
雨上る枝延したる桜の木  
美術館一人余さず蟹歩き  
野球する声こだまして春休

長野 植本 勝彦

木遣り泣き合の手轟轟木の芽風  
よいてこさ神木進む花辛夷  
大鳥居くぐるのどごと夏めきぬ  
山吹や冠落し斧を振る  
はなみずき我等裏方車地廻す

東京 初芝 澄雄

雨日の間のアジサイの花はつとす  
アジサイは日光に映え七変化  
里隔り山桃赤く我が庭に  
モノレールの窓外の景初夏溢れ  
モノレール外の景色は若葉のみ

北京行 兵庫 廣辻 逸郎

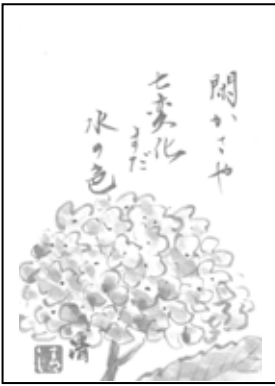
恋かなう橋かき分けて車夫の汗  
葡萄棚主の椅子の古びたる  
故宮広し氷菓子売りの一塊錢  
宮殿の案内に飽きてソーダ水  
日傘溢れて望樓の遥かなり

青森 福土 盛天

緑陰の木漏れ日踊る障子かな  
短夜やカント・デカルト・ハイデガー  
睡蓮や波間に浮かぶ白さかな  
日盛や息もて余す愛し犬  
夕焼や高校時代の帰り道

東京 福神 規子

葭簾幽霊坂に住み古りて  
身ほとりに「二女ゐる幸や桐の花  
夏座敷一切調度なかりけり  
遠景に静かな海や薔薇を見る  
少年に戻りたき日や夏の海



東京 福富 清子

東京 福富 清子

渡良瀬川白雲流る麦の秋  
レリーフのモガ・モボささめく青葉蘭  
中干しや天袋より父の反故  
七変化増やして逝けり兵たりし  
言霊の入れかはり来て明易し

青森 三上 忠英

初孫に百の目動く夏座敷  
故郷や横座にでんと盆の父  
帰省子の真つ先に行く駄菓子店  
デパートに何か侘しき兜虫  
水打つて水打つて客待つてをり

東京 初木 秀穂

巢燕を仰げば親か掠め飛ぶ  
夏館多摩の横山あらはなる  
木犀の香の時折に午睡かな  
星見えす夜も三更や星祭  
生い立ちを知る庭石や夏木立

広島 渡辺 晋山

五月雨の雷鼓たたきて去り行けり  
虹立ちて山のかなたへ誘はれき  
慈悲心鳥なげ声遠し山深し  
とうかささん浴衣の老若男女かな  
かんぱちや酒の肴の季節よし

青森 秋霧 朝光

待つといふ喜ひありぬ春の土  
咲く桜咲かぬ桜も人生だ  
日めくりを剥けば立春つるつるす  
春つらら夢も雷もふくらんで  
雪囲い外して春を広くする

歌会を開きませんか  
さる6月の総会で  
林先生から「歌会を  
開きたいですね」と  
発言がありました。  
新年会を兼ねて  
1月下旬ごろ、銀座  
あたりでということ  
です。秋季号に具  
体的な手順をお知  
らせしますので、そ  
の際にご参加くだ  
さい。